

「学長」 学生からは遠い存在。
それを良い意味で崩してしまおうと
学生たちがインタビューにのぞんだ。

大学改革の真っ只中。
その心の中には
単なる自己犠牲を越えた
「人のため」があった。

地域の拠点大学，学際的な基幹大学として
質の高い大学にしたい。

新潟大学 学長インタビュー



インタビューデータ

日時

3月29日

AM9:30～10:30

ロケーション

学長室

レポーター

柳田 恭伸（農学部）

新保 麻希（医学部）

石塚麻衣子（医学部）

学長プロフィール

名前は荒川正昭，昭和11年3月2日旧満州に生まれ，新潟で育つ。
新大医学部卒業後，母校で教育，研究，診療に従事，睡眠時間4時間の多忙ながら充実した生活を送る。現在は学長として，人並みの生活を満喫している。趣味はミステリー小説，歴史小説，スキー，バレーボール。食べ物の好みはシンプルなもの（刺身，レアステーキなど）。座右の銘は，人生感意気 功名誰復論（魏徴「述懐」より）

若者とは本来、時代を先取りして その時代からはみ出してしまふもの。ただ・・・

今の学生の服装や髪型についてどう思われますか？ また、学長自身何かこだわりはありますか？

個人の趣味に干渉する気はなく、人に迷惑をかけなければ良いのではないかと。私は祖父の生き方から、「人の立場を尊重し、人に迷惑をかけてはならない」ということを学びました。携帯電話にしても使い方の問題でしょう。「今の若者は・・・」という言葉は昔からありますが、若者とは本来、時代を先取りし

てその時代から外にはみ出してしまふものだと思います。ただ日本人には「緑の黒髪」が似合うと思います。黒髪をぜひとも大事にしてほしいものです。私は汗かきなので、夏はVシャツと下着を2～3回着替えることがあります。今も鞆に着替えが入っています。患者さんに不快な思いをさせてはならないからです。私の医師としてのモットーは、「人のために生活をして、己のために生活せざる」であります。これは自己犠牲という単純なものではなく、患者さんの心の支えになることが最も大切であると思います。



緊張、プレッシャー。
汗もかいたし、もっと聞きたいこともあった。

プレッシャーを経験すること。 それで勉強が面白くなる。

今の学生に求めるものはありますか？ 学長の夢はなんですか？

勉強することは、大きなプレッシャーであり努力も必要です。しかし、それを経験することで、勉強が面白くなっていくと思います。私は、好きなことを研究していたからこそ、今日まで続けることができたと考えています。ですから、大学では激しく勉強してください、とは申しまして、研究することだ

けが偉いのは決してありません。世の中には、地味な仕事を地道に努力している方々の方がむしろ多くありますが、その人達が、軽くみられるような世の中だとしたら、それは不愉快ですね。また、皆さんが何をやるにしても、基礎的な学力や知識は必要不可欠です。このためには、先達が残した多くの書物（古典）をもっと読んで欲しい

と思います。先達の書物には教えられることが数多くあります。是非とも読んでください。五十嵐キャンパスの周辺にはそれらを扱う本屋さんが見られないのは気になりますが・・・今は大学改革の真っ只中にあります。私の夢は、新潟大学を新潟を中心とした地域の拠点大学として、また、学際的な基幹大学として、教育、研究において質の高い大学にしたいと願っています。

レポーターの皆さんに インタビューを終え てみての感想は？

学長とのインタビューの間は、緊張してないと思っていたけど、後で服の下にたくさん汗をかいていたことに気づき、緊張していたんだなあと思えて実感した。いろいろ初めてのことばかりで試行錯誤しながら準備をしてきたけど、無事に終わり、プレッシャーから解放されてホッとしたことが一番の感想です。

柳田恭伸



「学長」と言うと、私たち学生からはとても遠い存在のように思われます。今回のインタビューでは、それを良い意味で崩してしまおう！私には密かにそう企てていました。しかし実際始まると厳かな雰囲気圧倒されて緊張緊張緊張・・・はあ・・・もっといろいろ聞きたい事があったのになあ・・・まあ次回（あるのか??）がんばりましょ。

石塚麻衣子

必死に記録でがんばりました。学長とお話する余裕がなくて、ちょっと残念！

新保麻希

